

絆

—きずな—
新たな「まちづくり」を求めて！
社会教育委員からの提言

「家庭教育」を基本とした、新たな「まちづくり」の視点にたった生涯学習の在り方について、3人の社会教育委員さんから提言がなされましたので紹介します。

すこやかコミュニティ事務局主事

中里 文さん

「発見！すえまち」

昭和48年秋に博多駅付近から引越してきた私の眼には、緑豊かなこの町も、当時は公園もなにもなく、見渡す限りの田んぼと山、空き地にボタ山が



中里さん

ある灰色の町に映っていたような記憶があります。

春にはヒバリや牛ガエルの鳴き声で寝付けず、夏の終わりにスズメの音で飛び起き、秋には虫の合唱が鳴り響き、冬には緑豊かな山もモノクロの銀世界に変わり、四季折々の見聞の、聞くもの驚くことばかりでした。

私はいつの間にか、引越してきたことが嘘のように須恵の子になっていました。

須恵川で泳いだり、皿山公園に行ったり、須恵高校の所にあつたボタ山を駆け回り、野いちごを見つけては食べ、

わき水があれば飲みと五感を使ったた

くさんの経験をしてみました。
地域では、区の行事にも子ども会の行事にも区民全員が参加し、会話やた

くさんの笑いがあり、活気にあふれていたように思えます。

あれから約35年が経過し、見渡す限りの田畑も住宅地となり、マンションができ、近隣町には大型ショッピングモールが建ち、生活するにはとても便利になりましたが、私が子どものころに聞いた音が消え、人口が増えるにつれて、区離れの問題をかかえる行政区も増えてきたと聞いています。

今からの高齢化社会に向けて、人との交わりは今も昔も変わらなく大事なはずですが、人はひとりでは生きていきません。人と助け合い、喜びを分かち合い、また共に学び、共存していくことが大事であり、それが地域力と繋がるのではないのでしょうか。

そのきっかけづくりのためにも、地域と行政の橋渡しの存在であるコミュニティを推進し、よりよい地域づくりのための活動ができればと思っております。

昨年末に、ある懇親会で私の知らなかった昭和30年前後の須恵町のことを聞くことが出来ました。みなさんは満面の笑みを浮かべながら当時の様子を話してくださり、私にとってまた新たな発見となり、楽しい一時となりました。郷土愛という重たく感じるかもしれませんが、せつかく須恵町に住んで

いるのですから、知らないこと探しをしてみようでしょうか。

須恵町には、県の無形文化財や史跡、いろいろな文化財があります。それを知ることで、歴史がわかり驚きもあると思えます。

また、須恵町には五つの学校があり、その校歌には、須恵町の素晴らしい自然や文化が歌われています。それを調べてみるのも楽しいでしょう。(実は町歌もあるんですよ。ご存じですか？なぜか私が少し口ずさむことができるのは、子どものころに町の行事が行われるたび、流されていたからなのでしょう。)

子どものころから住んでいる私も、まだまだ知らないことが多いので、どんなことにも興味を持ち、もともと発見していきたく思っています。

まずは「チャレンジ」をするということ、区の行事、校区の行事、町の行事に参加してみてください。あなたの知らない自分が発見できるかもしれません。

子どもたちに、須恵の伝統と文化を継承していくためにも、私から、大人から須恵町のことを知ることが大事だと思えます。

校区コミュニティが発足10年を迎えるに当たり、初心にかえり、今の子どもたちが20年後、30年後に須恵町に住みたい、帰ってきたと思えるような地域に根付いたコミュニティをみなさんとともに作っていきましょう。

須恵中学校PTA会長

浅田 泰志さん

「おかげさまの精神で」

社会教育委員に委嘱されて、もうすぐ1年になります。

私は、選出母体のPTA活動の中で、学社融合のつなぎ役の一助になると社会教育委員をひきうけました。

今回、「絆」というテーマで寄稿することになり、改めて辞書で調べてみました。「絆」とは、人と人との結びつきとあります。私にとっての書くべき絆とは、「家族との絆」「先生と生徒の絆」「地域社会との絆」について考えてみました。

須恵中学校では、毎年、歴代校長・会長会を執り行なっています。参加い



浅田さん

ただく歴代の方々の活動内容やこの会合の誕生秘話など、楽しい懇親会となっております。

環境委員会をつくられた当時のエピソードの中に、その時代背景があり、PTA役員としてよりよい活動ができるためにチャレンジしてこられたことや、新しい試みを取り入れながら、今に引き継がれていることを知りました。その時代時代によって、委員会も改定されていったお話を聞いて、時代にそったチャレンジを勇気をもってやらなければと決意しています。また、歴代校長・会長会の方々の伝統の絆に恥じないようにしたいと思います。

みなさんは、「今の若者(親)は…」という話を耳にしませんか。この言葉は、いつの時代も言われてきています。しかし、自分が若いときに言われてきたからと繰り返すのではなく、「時代にそったチャレンジの精神」で取り組んでいくべきだと私は考えます。

より良く暮らしやすい社会にするには、2つの約束が見えてきます。

まず1つ目は、「権利と義務」につ

いてです。

社会や学校には、法律やルールがあります。現代社会においては、声高に権利をよく主張しますが、権利には必ず義務が発生するものです。

自由には責任があります。例えば、ルール改正を求めるならば、嫌々ながらもそのルールを守っている人にか、その権利を主張することはできないということになります。果たすべき義務について、大いに考えてみましょう。

そして2つ目は、「おかげさま」の心を持つことです。

かくいう私も忘れることがあります。その心があれば自然に、相手に対して優しくもなれるし謙虚になれるものです。

ここで、作者不詳でどなたかは分からないのですが「おかげさまで」という詩を、みなさんに贈ります。

「おかげさまで」

夏がくると 冬がいいという
冬がくると 夏がいいという
太ると痩せたいという 痩せると太りたいという
忙しいと閑になりたいという
閑になると忙しい方がいいという

自分に都合がいい人は善い人だとほめ自分に都合が悪くなると悪い人だとけなす
借りた傘も雨が上れば邪魔になる
金を持って古びた女房が邪魔になる

世帯を持てば親さえも邪魔になる

衣食住は昔に比べりゃ天国だが
上を見て不平不満の明けくれ

隣を見て愚痴ばかり
どうして自分を見つめないのか

静かに考えてみるがよい
一体、自分とは何なのか

親のおかげ 先生のおかげ 世間様のおかげ
おかげの固まりが 自分ではないか

つまらぬ自我妄執を捨てて 得手勝手を慎んだら

世の中はきつと明るくなるだろう
おれが おれが を捨てて

おかげさまで おかげさまでと暮らしたい

この詩から、何かハッとすることがあつたならば、実践してみてください。人は、とかく「分かっとうし 知っとうし」と言いますが、言われて初めて気づくこともあるはずなんです。それは知らないことと同じです。

どんな小さいことでも、意識して考えることが大切です。

子育ては、こうあるべきだとこれが正しいと決めつけるのではなく、親や地域(コミュニティ)の方が優しく手を差し伸べ、分かりやすい言葉で「助援」していただけたら、きっと子育てしやすい環境ができるでしょう。

「地域の絆」で、子を持つ幸せを実感できる世の中になってくれることを切に願います。